資料-1

第１回名取川水系河川整備学識者懇談会　議事概要

＜意見交換＞

●名取川との関わり、整備計画への想いなどについて

●公共インフラ整備自体が何か悪い事であるかのような風潮が広まっているので、公共工事、公共インフラの必要性、効果をわかりやすく示してはどうか。

●水辺の整備に投資することは、その都市のブランドを高めるのに非常に重要なことである。都市政策の観点から河川を考えたときに、名取川にしても、その支流である広瀬川にしても、都市を形成する広い意味でのソースとして十分に活用しきれていないと思う。

●公共インフラが私らの生活を支えているのだということを各現場で、子供たちを含め市民に積極的に開示して見せていくことは面白い取り組みだと思う。

●昭和 61 年 8 月 5 日や平成 6 年 9 月 22 日の水害などで、内水が発生したり増田川が氾濫したりしているが、内水については貞山運河への排水が農業排水に頼っており、その能力を超えると浸水被害を受けるため、この対策をどう進めるかである。

●貞山運河は 400 年以上前に伊達政宗が開削を始めたと言われ、私たちにとっての貴重な財産でもあり、どう今に活かしていくかということをテーマとして持っておきたい。

●名取川の右岸にクロマツの並木があり、通称あんどん松と言っていて、これを地域の大事な景観として守るために、どのように取り組んでいけばよいのかと思う。

●河川敷の公園については、地盤高が低いと整備しても洪水で流されてしまうため、閖上の河川敷グラウンドは使わなくなっている。流量を確保するためにはやむを得ないと思うが、対策がとれればと思う。

●名取川の右岸は整備されているが、貞山運河の入り口の水門についての対策をお願いしたい。

●広瀬川では昭和 30 年頃と比べると中州、寄州が非常に発達してきている。現在なぜ中州、寄州が発達したのかと考えると、河川管理の仕方が悪かったのではないか。今後 30 年間にわたっていろいろ整備していくことになるが、河川敷の中の自然環境はどうあるべきかを十分に考えた計画にして欲しい。

●名取川が他の河川と大きく違うのは河川の周辺に張りついている社会資本の大きさである。河川整備計画には堤防だけではなく、内水について対策までは盛り込まなくても、方向性を示すようなものを盛り込んでもらうなど、他の河川と違う名取川、広瀬川にふさわしい整備計画案を提案して欲しい。

●名取川という名称は、歴史、文学の中でも古くから現れていて、長い歴史の中で発展してきた。名取川の整備計画では他河川にはない歴史的な、文化的な味をつけて欲しい。

●貞山運河沿いで明治以降の水害が起こっているところや旧仙台城下は藩政時代にはほとんど水害がなかったところで、技術を過信して本来開墾できないところを水田化したので、結果的に今大雨が降ると浸水するのではないかと思う。

第１回名取川水系河川整備学識者懇談会　議事概要

●今我々がやっていることは環境容量をオーバーしていて、本来危険な地域にまで住んでしまいいろいろな問題が発生している。種の多様性、生物の多様性を議論する中では、人間も含んだ生物多様性として考えていけば、問題は起こってこないと思う。そのようなことを考えていい河川として残せれば良い。

●名取川というのは非常に古い時代から名前があるので、そういうものをきっちり残せるような形でつくられると良い。

●河川の場合の安全目標は、流量や水位としているが、これは外力の評価・把握であり設計としては十分であるが，被害実態を反映していない．被害実態を評価し，それを軽減するという内容を含んだ防災とか減災の目標にする必要がある。現況で予想される浸水域、浸水面積、被害をきちんと示して、それをどういう計画でどこまで低減させるのかという市民もわかる具体的な防災、減災目標が計画に必要である。

●危機管理というのは，住民側よりもまさに行政がやっていく必要があると考える。誰がどういう情報を集めて、どういうシナリオのもとで対応するか、想定以外のことが起こったらどう判断するのかが大切なポイントなので、是非、計画の中で位置づけて欲しい。

●今後 30 年の計画ということを考えると宮城県沖地震が 99%の確率で発生するため、この計画中で必ず発生すると言って良い．現在，地球温暖化の影響も叫ばれる中，洪水とともに地震が発生する複合災害や、治水施設が地震で一部機能を失った場合といった従来は想定外だったものも検討していかないといけない。

●今の計画においてインフラ整備もするが、30 年後には今の小中学生が 40 代になって社会の中心になるので、そこでの社会を担う人材育成の点も重要である．市民育成というか子供達が公共性をきちんと理解し、また環境や安全の本質をきちんとわかるようにする教育が大切である。

●この川はアユだけでなく、かなりのサケの遡上や産卵が見られ、河口域でも豊かな魚類が生息しているなど、非常に生物生産が豊かでる。汽水域は稚魚などの魚の育成の場として大事な場所だと言われている。
　水は循環していることから水の中の生物にも注目し、川の豊かさの源が自然力であることを理解し、名取川の地域特性を活かして、ここから発信できるような整備計画を作成してほしい。

●基本方針の説明を聞いて、流域で考えるという視点が少し欠けていると感じた。流域の保水能力を高めたり、流域の中に貯留施設を設置していくという、河川サイドから流域に注文をつけて、河川の安全性を高めるためには流域をこういうふうにしていく必要があるというような視点が必要である。
　基本方針の説明の中で、治水についてはいろいろ説明があったが、治水と利水と環境と言いながら、利水と環境の説明が少ない。
　今後 30 年でものを考えると、河川の水質をＢＯＤだけで見ていくには限界が出てくるだろうと思う。特に広瀬川は清流広瀬川と言っており、雨の後の濁りが長期間継続するというようなことは、上流域の管理とか、保全にかかわっている。
　そういったことまで含めて幅広い視点から見た計画がつくられることを期待する。

●委員の方々に情報発信源になっていただき、また、議論のエッセンスを聞いてもらい理解を図ったり、公共事業の再評価実施など国土交通省が努力をしているということを広く知ってもらうために、例えばタウンミーティング的なしつらえを作ってもらってはどうか。

●整備計画の策定の中でも一般市民のいろいろな意見を聞くということが制度として盛られているので、専門の立場の者ばかりではなく、一般市民の意見も含めて議論を進めていくことが大事である。
　名取川水系に関しては、仙台を抱えているということで、住民やＮＰＯなどから仙台、名取川ならではの意見をもらい、計画をつくっていくことが期待できるのではないか。過去の事例ではパブリックコメントが少ないものが多いので、なにか仕掛けを一工夫して欲しい。